

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
静脈経腸栄養21巻2号 Page3-9,2006	救急医療とNST	北澤 康秀	救急医学科
Chirurgia19巻5号 Page333-336,2006	A study of axillary artery cannulation in Stanford type A acute aortic dissection compared with femoral artery cannulation	H.Fujii	救急医学科
Chirurgia19巻5号 Page337-340,2006	Administration of sivelestat after acute aortic dissection surgery	H.Fujii	救急医学科
日本臨床救急医学会雑誌別冊 9巻6号 Page438-443,2006	救命センターに搬送された下肢閉塞性同若硬化症急性増悪例の治療成績 -下肢動脈塞栓症との比較-	藤井 弘史	救急医学科
Chirurgia61巻6号 Page509-514,2006	Return to home early days after acute aortic dissection surgery	H.Fujii	救急医学科
Atherosclerosis. 2006 Oct;188(2):377-83.	Increased soluble FcγRIIIa(Mφi) in plasma from patients with coronary artery diseases.	Takahashi H	臨床検査医学科
J Infect Chemother. 2006 Jun;12(3):132-8.	Epidemiological study of Candida infections in blood: susceptibilities of Candida spp. to antifungal agents, and clinical features associated with the candidemia.	Nakamura T	臨床検査医学科
JIM: Journal of Integrated Medicine(0917-138X)16巻10号 Page818-821(2006.10).	【臨床検査の達人になる!】臨床検査の読み方・すすめ方 炎症反応マーカー、CRPの活用の仕方	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本臨床(0047-1852)64巻増刊5 Page94-100(2006.07)	【高血圧 最新の研究動向】基礎編 血圧調節因子 交感神経系	高橋 伯夫	臨床検査医学科
ホルモンと臨床(0045-7167)54巻5号 Page417-423(2006.05)	【体液調節とホルモン】体液調節の基礎 Na利尿ホルモン 内因性ジギタリス	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本臨床(0047-1852)64巻増刊5 Page177-181(2006.07)	【高血圧 最新の研究動向】基礎編 血圧調節因子 循環生理活性物質 ジギタリス様物質	高橋 伯夫	臨床検査医学科
日本検査血液学会雑誌(1347-2836)7巻2号 Page278-286(2006.07)	2社の血漿FDP測定試薬の比較検討と問題点 人為的採血不良検体と凝固・線溶亢進症例および異常フィブリノゲン症例	吉賀 正亨	臨床検査医学科
クリニカルプラクティス第25巻第4号 Page297-299,2006	動脈硬化とCRP	高橋 伯夫	臨床検査医学科
血圧 13巻6号 Page639-646,2006	中枢性交感神経抑制薬治療と糖尿病～メタボリックシンドロームを中心に～	高橋 伯夫	臨床検査医学科
Nephrol Dial Transplant 21 Page1640-1647,2006	Association of the circulating adiponectin concentration with coronary in-stent restenosis in haemodialysis patient.	Hakuo Takahashi	臨床検査医学科
ホルモンと臨床54巻5号 Page417-423,2006	Na利尿ホルモン(内因性ジギタリス)	高橋 伯夫	臨床検査医学科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原簿論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 今村 洋二
管理担当者氏名	薬剤部長 廣田 育彦、看護部長 安田 照美、 事務部長 竹林 俊雄

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約		管理課、各診療科、 薬剤部、手術部、 各病棟、臨床検査部、 放射線部、病歴情報課、 地域医療連携部、	保管部署で管理
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	/
	高度の医療の提供の実績	各診療科	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	卒後臨床 研修センター	
	閲覧実績	病歴情報課	
	紹介患者に対する医療提供の実 績	地域医療連携部	
	入院患者数、外来患者及び 調剤 の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
確規 保則 の第 9 況条 の 2 3 及び 第 1 1 条各 号に 掲げ る体 制	専任の医療に係る安全管 理を行う者の配置状況	有 (1名)	/
	専任の院内感染対策を行 う者の配置状況	有 (1名)	
	医療に係る安全管理を行 う部門の設置状況	有	
	当該病院内に患者からの 安全管理に係る相談に適切 に応じる体制の確保状況	有 (専任2名)	
	医療に係る安全管理のた めの指針の整備状況	有	
	医療に係る安全管理のた めの委員会の開催状況 (平成18年度)	12回	
	医療に係る安全管理のた めの職員研修の実施状況 (平成18年度)	8回	
	医療機関内における事故 報告等の医療に係る安全の 確保を目的とした改善のた めの方策の状況	有	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医療情報部部長 今村 洋二 (病院長)
閲覧担当者氏名	医事課長 山本 和彦、 医療情報部病歴情報課員 北村 臣
閲覧の求めに応じる場所	1階 情報ライブラリー室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績 (平成18年1月～3月)

前年度の総閲覧件数	延 1 件	
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	55.19 %	算定期間	平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,837 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,607 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,927 人
	D: 初診の患者の数		42,799 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑦ (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑦ (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦ ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (11) 名・ 活動の主な内容： 組織横断的に当該院内の安全管理を担う部門であり、院内の診療体制、臨床研修医等の管理体制、薬剤管理、看護管理の徹底化さらに、医療機器などの保守点検及び適正使用、院内技術研修体制の充実、医療事故再発防止の確立を行う事で患者に安全な医療を提供する。 医療に関わる安全の為の指針の策定及び変更、組織機能の安全に関する検討を行う。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	⑦ ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	⑦ ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容： 「医療安全管理マニュアル」、 「患者相談窓口運用規程」 参照	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況（平成18年年度）

年 12 回

・ 活動の主な内容：

(1) 医療安全管理対策委員会：原則毎月1回定例開催

医療事故を未然に防止すると共に、迅速かつ適切な対策を講ずるため、インシデントレポートの分析検討、マニュアルの整備、マンスリーレポートの発行、セーフティーマネージャー会との連携などを通じて安全管理の徹底化を促進する。

(2) 医療事故対応委員会：必要の都度開催

インシデントレベル3bで病院長、医療安全管理部長と専任医療安全管理者が合議し、医療過誤が原因である、またはその可能性が否定できない事例とレベル4a以上の案件は、病院長が委員会の開催を指示し、事故対策方針、事故原因の分析、患者・遺族との交渉、関係職員の制裁などについて審議対応する。

(3) セーフティーマネージャー会：原則毎月1回定例開催

医療機関の安全体制の確保及び推進の為に各委員会の管理及び運営に関する規定を定め、安全管理の為に事象の発生原因を分析し、改善策の立案及び実施、職員への周知を図る。更に実施された改善策の実施状況の調査、見直しを行う。

(4) 感染対策委員会：原則毎月1回定例開催

病院内におけるMRSA、その他の院内感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期するために院内感染及びその予防のための調査、研究、院内感染症発生時の対策などの方策と実践を行う。当委員会のマニュアルに次の指針が示されている。MRSA感染防止対策指針、手洗い(手指消毒)指針、消毒剤使用指針、B型肝炎感染予防対策指針、C型肝炎感染予防対策指針、針刺し後のHIV感染防止対策指針、結核感染予防対策指針など

(5) 看護部感染防止リンクナース会：原則2ヵ月に1回開催

感染対策委員会の下部組織として発足し、ICTの指導を受けながら、感染防止にかかわる調査、研究、教育活動を行い、有効かつ低コストの感染防止対策を実践し、院内感染の減少を図る。

(6) 輸血療法委員会：原則毎月1回定例開催

院内における輸血に関し、輸血療法を安全かつ適切に行い、輸血に伴う事故や副作用、感染及び合併症の対策について審議する。

(7) 医療ガス安全管理委員会：原則年1回定例開催

医療ガス設備の安全管理を図り、患者さまの安全を確保するために保守点検指針に基づいて、実施責任者に医療ガスの保守点検業務を行わせ安全の確認を行い、各部門に医療ガスに関する知識を普及し啓発に努める。

(8) 安全衛生委員会：原則毎月1回定例開催

職員の危険防止及び健康障害を防止するための基本的な対策を立て、労働災害の原因や再発防止に努め、職員の健康増進を図るための基本的な対策を立てる。

(9) 看護部安全対策委員会：原則毎月1回定例開催

看護部内において委員会を組織し、看護部内における安全及び危機管理に関することなどを検討し、病棟・外来の安全巡回、安全対策学習、医療事故の集計や分析を行う。

(10) 放射線安全管理小委員会：原則年4回開催

業務従事者の教育訓練、施設の改廃、新設、維持管理、放射線の測定、記録の分担、大学の予防委員会等の調査の立会い、科学技術庁又はその指定検査機関による施設検査、定期検査などに際しての対応を行う。

(11) NST委員会：原則毎月1回定例開催

栄養障害の早期発見と治療により、現疾患の重症化を抑制することで、患者満足度や医療の質の向上を図る。

(12) 褥瘡対策委員会：原則毎月1回定例開催

褥瘡の発生予防及び発症後早期からの適切な処置と対策を講じるため、入院患者に褥瘡に関する評価を行い、必要な対策を実施する。

(13) クリニカルパス委員会：必要の都度開催

クリニカルパスの作成と改訂を通じて医療の効率と質の向上を図り、患者の満足と資源の効率的活用を目指す。

(14) 看護部安全対策リンクナース会：原則毎月1回定例開催

看護部安全対策委員会の下部組織として、各部所のインシデント分析や病棟・外来の安全巡回、安全対策に関する学習を行い、安全に関する知識の普及、医療事故防止を図る。

(15) 看護部セーフティマネージャー会：原則毎月1回定例開催

セーフティマネージャー会の分科会として、各部所のインシデント分析や安全巡回などを行い、医療事故防止についての教育や安全管理対策の推進を図る。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況（平成18年年度）

年 8 回

研修の主な内容：

別 紙 参 照

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ） ・ 無 ） 電子化 [第一、二報方式]
 1. 電子化入力運用を行っており、第一報は全職員、第二通知は、セーフティーマネージャーがそれぞれ入力を行っている。
 2. 事故報告等の目的は、「個人を罰する事ではなく事故の再発防止に活用することである」と定めている。
 3. 報告すべき事項は、療養指導から院内給食に関するものまで29項目である。
 4. 報告先は、セーフティーマネージャー、所属部門の部長を経て、医療安全管理部、病院長である。緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し指示を受けて対処する。
 5. 医療安全管理部は、報告を受けて速やかに内容を把握し、当該のセーフティーマネージャーと分析し、対策を講じる。

・その他の改善のための方策の主な内容：

<安全教育>

1. セーフティーマネージャー会での事例検討、報告
2. 職員研修のDVD上映会開催
3. 技術教育
(人工呼吸器の取り扱い、輸液ポンプ、微注ポンプの取り扱い等)

<情報システムの活用>

1. 医療安全管理対策委員会より、「医療安全委員会マンスリー報告」発行（月1回）
2. 医療安全管理部より、「医療安全情報」の発行（事例により発行）
3. 医療安全管理部より、「医療安全ほっとメール」の発行（事例により発行）
4. 電子カルテ上にホームページの開設

<安全巡廻による評価>

1. 改善策に係わる実施状況の評価

<改善の為の取り組み>

1. 新入職者研修、新入医局員ワークショップを開催し、技術、教育、事例検討、輸血、感染、接遇、診療録、等安全に関するワークショップを施行。
2. セーフティーマネージャーによるWG（業務 巡回 研修 インフォームドコンセント）
3. 看護師に対する事例分析の講習会を開催した。
4. 「診療運用の手引き」をすべての医師と各部所に配付した。
5. 各種マニュアル（手術部位マーキング、術後遺残防止、暴力発生時の対応、不当要求等の対応）を作成した。
6. セーフティーマネージャーによるRCA分析
7. 各種手順書（硬膜外チューブ抜去、造影剤やR I 静注、血管造影時の圧迫帯除去）を作成した。

以 上

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

(平成18年4月～平成19年3月)

研修の主な内容

- クリニカルパス大会（平成18年6月3日） 参加者 81名
本院におけるクリニカルパスについて、クリニカルパスの導入と問題についての演題発表を行った。

- 感染症講演会（平成18年7月3日） 参加者 192名
亀田総合病院の岩田健太郎先生から「抗生剤の考え方・使い方」に関して講演いただいた。

- 医療安全講演会（平成18年7月25日） 参加者 119名
本院顧問弁護士の小寺一矢先生より「病院におけるトラブル～予防と対策～」と題して、医療事故の概説や医療紛争増加の要因に関して講演いただいた。

- 感染症講演会（平成18年10月24日） 参加者 66名
神戸大学の栄田敏之先生、本学臨床検査部の中村竜也先生により「抗MRSA薬の適正使用に関するシンポジウム」に関して講演いただいた。

- 感染症講演会（平成18年12月5日） 参加者 119名
近畿中央胸部疾患センターの鈴木克洋先生より「結核」に関して講演いただいた。

- 医療安全大会（平成18年11月6日） 参加者 293名
手術時の異物遺残対策、転倒・転落防止への取り組み、医療機器管理への取り組みなど各附属病院より、計5題の演題発表を行った。

- 医療安全講演会（平成19年2月1日） 参加者 144名
大阪地方裁判所の角隆博民事部統括裁判官（他5名）により、医療訴訟に関する説明とビデオ上映、並びに事前アンケートへの回答に関して講演いただいた。

- クリニカルパス大会（平成19年3月15日） 参加者 104名
バリエーション入力結果と入力方法について、内視鏡的胃粘膜切除パス並びに白内障パスについての演題発表を行った。